

図2-17 屏風祭分布図

また、「会所飾り」に呼応するように、自宅や会社の京町家などでも「屏風祭」が行われる。京町家の表の格子をはずして幔幕を張り巡らせ、店から奥座敷まで障子襖類を取り払い、涼しげな御簾をかけるなど、祭りの際の座敷として「ハレ」のしつらえに整えられる。そして、床に毛氈などを敷きつめた上に、その家の秘蔵の屏風などの美術品を公開する。特に「宵山」の夜には、表通りから家の中までよく見通せ、それらの美術品を拝見し、



写真2-18 屏風祭（小島家）出典 「京町家の再生」



写真2-19 会所飾り（八幡山町会所）

山鉾を愛でながらそぞろ歩くことは市民の楽しみであり、また主人の喜びでもある。その間、町内の家々では、お客様をお招きして宴が催される。表通りは、数十もの提灯に照らされた山鉾、ずらりと並んだ屋台、行きかう人の波で町中が華やかな雰囲気包まれる。

祇園祭に向けて行われるお囃子の練習の音、山鉾の組立て、宵山を経て17日の山鉾巡行、その間に行われる町内での会所飾り、屏風祭など、7月の一ヶ月間にわたる祇園祭の様々な営みが行われ、まちを祇園祭一色に染める。

## b 京都五山送り火

毎年8月16日の夜8時に、東山は大文字山（如意ヶ嶽）の中腹にぼつりと一つの明かりが点灯され、見る間に巨大な「大」の字にしつらえられた火床に点火される。続いて、市内を囲む北山、西山の中腹に「妙・法」の文字、「船形」「左大文字」「鳥居形」が次々と点火される。

これらは、総称して「京都五山送り火」と呼ばれ、それぞれが京都市無形民俗文化財に登録されている。8月のお盆に個々の家で迎えた精霊（先祖）を再び冥府に送り返す伝統行事である。その壮大で幻想的な行事は、市民にとって大切な夏の行事であり、京都の夏の夜空を彩る風物詩となっている。

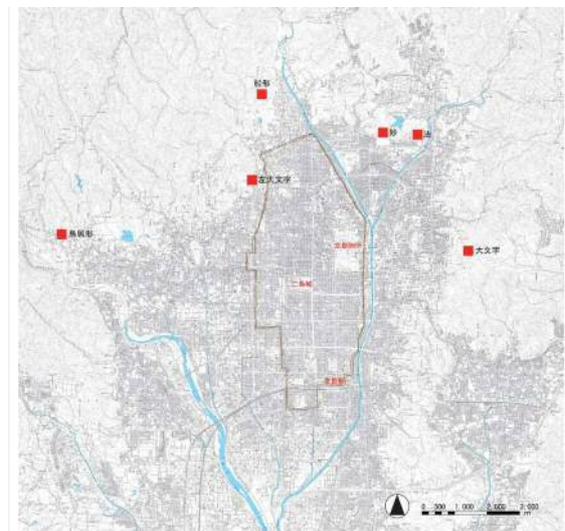


図2-18 京都五山送り火 市街地と送り火との関係